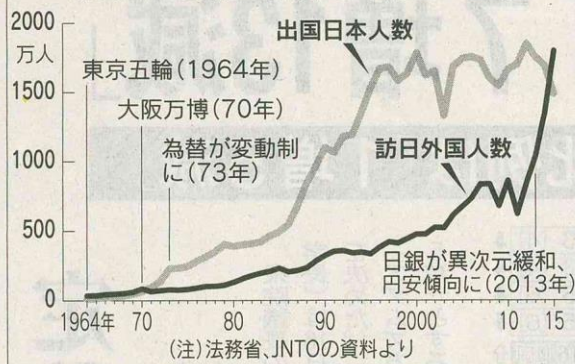


訪日客は急激に増加(2015年は1~11月)



訪日客、出国者を上回る

今年、45年ぶり逆転確実

日本を訪れる外国人が2015年に45年ぶりに日本人出国者数を上回る見通しとなった。日本政府観光局(JNTO)が16日発表した1~11月(推計値を含む)の訪日外国人客数は前年同期比48%増の1796万人。これに対し同期間の出国者数は4%減の1487万人にとどまり、通年での逆転は確実な情勢だ。11月の訪日客数は前年同月比41%増の164万7600人。11月として

過去最高だった。田村明比古観光庁長官は同日の記者会見で、12月1日時点で今年の訪日客が1801万人となり初めて1800万人台にのったことを明らかにした。政府は20年に年間訪日客2000万人の目標を掲げてきたが、今年の実績は早くも目標に迫る勢いだ。背景には円安で外国人にとって日本旅行の割安感が強まったことや、政府がビザの緩和、消費税

の免税制度拡充を進めてきたことがある。特に何人も入国できる数次査証(ビザ)の発給要件を1月に緩和した中国人客は昨年1~11月に比べ2倍強の規模になっている。一方、日本人の海外旅行は頭打ちになっている。円安で海外旅行の割高感が強まり、「日本人は国内旅行に向かうようになった」(三菱UFJモルガン・スタンレー証券の嶋中雄二氏)ためだ。JTBが16日発表した16年の見通しでは、訪日外国人は2350万人に増える一方、日本人の海外旅行は1620万人と0.3%増にとどまる。

日本人の海外旅行が本格化したのは東京五輪があった1964年。観光目的で、スポーツを自由に取得できるようになった。経済成長とともに海外旅行に行く出国者は順調に増えた。円高で海外旅行の割安感が強まった12年には過去最高の1849万人に到達した。その後は為替が円安方向に動くとともに出国者は減少傾向に転換した。15年1~11月の実績は訪日客を約300万人下回っており12月だけで逆転するのは難しい状況だ。訪日客が出国者を上回るのは大阪万博があった1

970年以來になる。訪日客拡大は日本と海外とのお金のやりとりを示す国際収支に変化を与えている。訪日客が日本で使ったお金から日本人が海外で使ったお金を差し引く旅行収支は14年度に55年ぶりに黒字に。今年1~10月の黒字は9058億円に上った。安倍晋三首相は14日の講演で「次なる目標は年間3000万人」と述べたが、中国経済が減速するなか訪日客の拡大がこのまま続くか不透明な面もある。東京、大阪などのホテル不足などが制約になる可能性もある。